

むら塾 だより

2020年
春号

2020年4月5日発行
編集担当：土井佑夏

むら塾だよりはむら塾と地域との
連携活動の一環で作成しています。

1. 代表挨拶

春宵一刻値千金の候、相川・梨沢地区の皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

現在、東大むら塾代表を務めております、文学部西洋史学専修課程3年の藤枝望音（ふじえだもね）と申します。昨年度終わり頃からの新型コロナウイルスの感染拡大は各所に影響を与えており、早期の沈静化を祈るばかりでございます。また、時勢に鑑みると致し方ないことではございますが、相川・梨沢地区に関連する諸行事が中止・延期になりこれまで入念に準備なされた皆様のお気持ちを察するに余りあるものがあります。

それに関連して、私達が昨年度いっばいで閉校となります天神山小学校で3月15日（日）に開催することを予定しておりました「あおぞらパーティーin天神山小学校」の実施を断念いたしましたことをこの場をお借りして申し上げます。まだ先が見通せない状況ではございますが、この危機を乗り越え、今年度も地域の皆様と連携し、相川・梨沢地区で地に足をつけて活動して参りたいと考えております。

いよいよ4月になり、また東大むら塾にも新入生が入会する予定です。今後の連携活動の中でお世話になるかと存じますが、よろしく願い申し上げます。

これまでのむら塾の理念やアイディアに、新入生の相川・梨沢地区に対する新しい視点も組み込みながら、さらなる魅力を発見してこまめにSNSやホームページ等で発信し、さらに地域での活動を活発化させていこうと考えております。まだまだ至らない点もあるかとは思いますが今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



2. むらコン実施報告

この度「むらおこしコンテストinふつつ 2020」の責任者を務めました、法学部4年の佐野達哉（さのたつや）です。本企画の趣旨にご賛同の上、多大なるご協力又はご参加を賜りました地域の皆様に、衷心より深く感謝申し上げます。

本企画が大きなトラブルに見舞われることなく、むしろ想定を大きく上回る大成功に終わることができたのは、ひとえに皆様のご協力なくしては有り得ないことであり、人・地域・機会に恵まれたことを痛感致します。数字で見ても、全国11都府県から25人の学生のご参加を、最終日の発表会には160人の住民の方々のご観覧を頂き、富津市天羽の底力をつくづく実感いたしました。

およそ一年間をかけて、私達は「住民目線」「地区単位」という二つのテーマの下、企画設計を行ってきました。企画の運営や審査基準の運用にはまだまだ至らない点が多かったものの、二つのテーマを未熟ながらも一つの形として示すことができているれば本望です。

しかし、テーマ実現への道のりはまだ始まったばかりです。最初は暗中模索の中で進み出しながらも形が見え始めたこの第一回を基に、更に住民の方々に資する企画へと育てなければ幸いです。

今後は一層精進致しますので、引き続きお力添えを頂けると幸いです。



3. 農業報告

いつもお世話になっております。農業部長を務めております、農学部3年の和田真輝（わだまさき）です。

先日、相川地区の神子清志様の畑を一部お借りして、かぶ、ニンジン、ゴボウ、ジャガイモの播種、植え付けを行いました。これらの野菜はご飯会などむら塾内部での利用を目指してこれから育てていこうと考えております。

また、今シーズンの冬は育てていた白菜が害獣による食害を受けるといった出来事もあり、農業の課題を身をもって感じる機会となりました。

春には田植えもございますので、害虫害獣のみならず、自然との関わりなど様々なことを考えながら今後も農業に携わっていきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



4. 田植え合宿のご連絡

※3月25日時点

お世話になっております、田植え合宿の担当を務めます文学部社会学専修3年の土井佑夏(どいゆうか)です。

東大むら塾では例年ゴールデンウィークに新歓活動を兼ねた田植え合宿を行なっています。今年度も相川地区にて5月3日(日)～5日(火)の3日間で合宿を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、合宿形式での田植えを中止する運びとなりました。

つきましては、今年度は宿泊無しで5月3日(日)～5(日)の間に日帰りの田植え企画を数回行います。また、4月26日(日)にも新歓活動として日帰りの田植え企画を行います。今後の状況次第では人数を絞り手植えではなく機械での田植えとなる等の内容の変更も予想されます。何卒ご了承ください。

今年度も稲作が良いスタートを切れるように尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 五月祭のご連絡

お世話になっております。理科二類2年の井上太喜(いのうえたいき)と申します。東京大学の学園祭である五月祭が毎年5月に開催されております。むら塾も米粉を用いた料理、自分たちで育てた春野菜、相川・梨沢地区の皆さまにご用意いただいた野菜や商品の販売等を行っております。

今年度も出店を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響に伴い五月祭は延期となる見込みで、現在は実施内容を再検討しているところです。

延期後の日程や実施要項については追ってご連絡差し上げます。

引き続きよろしくお願いいたします。

6. ハーブ開発報告

平素より大変お世話になっております。副代表兼ハーブ開発担当を務めております農学部3年の吉山優吾(よしやまゆうご)です。

昨年度のハーブ開発プロジェクトは試験栽培という形で、レモングラスとパクチーの二種類の春植えハーブを栽培しました。私達としてもハーブ栽培は初めての経験で、栽培や管理において改善すべき点が見えてきました。

今年度のハーブ開発プロジェクトは栽培品目を一種類に絞り、製品化まで達成することを目標にしております。プロジェクトの成果のひとつとして、形に残るものを作りたいと考えています。

具体的な栽培品目はレモングラスを第一候補としておりますが、今後のプロジェクトの展開を鑑みて他の多年草のハーブの導入も検討中です。

このハーブ開発プロジェクトを通して、地域の魅力を広く発信する一助となれるように、今後も尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



7. 飯舘村プロジェクト報告

お世話になっております。新地域部の部長を務めます、法学部3年の吉良倫太郎（きらりんたろう）です。昨年から東大むら塾が新たな拠点として活動している福島県飯舘村での活動について報告いたします。

昨年6月の初回訪問から半年間は蕎麦の栽培に挑戦しながら飯舘村のことを少しずつ学んでいきました。村民の方と農作業をしたり、蕎麦を振る舞ったりする中で、私達の活動を徐々に認識していただくことができました。

半年間活動する中で飯舘村のことをより知りたいと思うようになった私達は、昨年12月から村民インタビューを実施してきました。今年2月までに合計15名の方にお会いし、お宅にお邪魔してじっくりとお話を伺いました。当然ではありますが、「飯舘村住民」としてのまとまった意見があるわけではなく、みなさんそれぞれ異なる意見や立場があることを感じました。

今後は伺ったお話を冊子形式でわかりやすくまとめて発信する予定で、村民同士のつながりを再強化する一助となることを目指しています。さらに今後とも、住民の方に寄り添い、村にとって真にプラスになることを行うべく様々な企画を実行していきたいと考えています。

その上で、福島県の飯舘村内部のみで活動を完結させてしまうのではなく、長期にわたり活動してきた相川・梨沢地区での経験を飯舘村での活動に活かし、また飯舘村で得た新たな視点や経験を相川・梨沢地区でも活用できるよう、次第に両地域の交流を増やしていくことを構想しておりますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

東大むら塾はSNSでも活動を発信しています。



<https://www.facebook.com/todaimurajuku/>



https://twitter.com/todai_murajuku



<https://www.instagram.com/today.murajuku/>

公式ホームページはこちら→ <https://todai-murajuku.com>